

# 平成27年度 各務原市社会福祉協議会 事業報告

## 目指す姿

「ささえて ささえられて みんなが主役のまちづくり」

## 基本方針

暮らしの基盤である地域社会や家族構成が大きく変化しているなか、失業や離職による生活困窮、ひきこもりや虐待、介護負担など地域における生活課題は複雑にからみあい深刻化しています。このような社会背景に加え、平成27年度は社会保障制度の大きな転換期であり、社会生活の自立支援を目指す「地域づくり」のキーワードのもとに、第3期各務原市地域福祉活動計画をスタートさせました。

本会では「ささえて ささえられて みんなが主役のまちづくり」を目指す姿とした第3期地域福祉活動計画の基本目標に基づいた重点事業（アクションプラン）を中心に地域力を活かして、あらゆる生活課題に向けた地域づくりを進めてまいりました。

## 基本目標1 一人ひとりの声を受けとめ、必要とする情報を必要な人に届けます

＜方向性1＞住民の声を受けとめる環境をつくろう

重点事業1 総合相談窓口の充実

①生活相談センターさぽーとの総合相談

- ・さまざまな悩みや困りごとの相談に対応するなど解決に努めました。

相談件数 2,844件

実相談者数 442名

- ・さぽーとのパンフレットを作成

生活の困りごとの相談に包括的に対応する機関である生活相談センターさぽーとの機能と役割を紹介したパンフレットを作成し、関係機関・公共施設等に配布し、周知しました。

②拠点を活用した地域出張相談

- ・身近な場所で相談が受けられるように地域交流拠点である緑苑地区社協「ふらっと」、八木山地区社協「ささえあいの家」において毎月1回出張相談を実施しました。また、稲羽西地区社協では地域の公民館を会場に出張相談を年3回実施しました。

相談件数 延べ6件

＜方向性2＞わかりやすく情報を発信しよう

重点事業1 社協活動のPR

①社協だよりやウェブサイトによる情報提供

- ・社協かかみがはらの発行

社会福祉協議会の事業や講座の案内、ボランティア募集など福祉の情報提供を行いました。

<年4回発行 5月15日号、7月15日号、10月15日号、2月1日号>

- ・事業の紹介やボランティア募集等をホームページやフェイスブックで随時紹介し、社協活動PR等の情報発信を行いました。また、各種メディアに情報提供し、取材や記事掲載に努めました。

#### ②わたしのお福わけ事業・お福わけ本の制作

- ・平成26年9月から福祉の輪を広げる新しい市民参加型企画「わたしのお福わけ事業」では、各務原にゆかりのある方からのしあわせエピソードを募集したところ、6才から80才をこえる方から投稿をいただきました。投稿いただいた作品は、随時フェイスブックに掲載、わたしのお福わけ本を作成し、市内の学校・福祉医療機関等に配布しました。また、大賞を選定する過程で作品展を開催し、温かい福祉の心の輪を広げました。

作品投稿数 141作品

わたしのお福わけ作品展（9月9日～9月15日 産業文化センターロビー）

発表及び表彰 11月17日（第49回 各務原市社会福祉大会）

入選作品 大賞 黒崎 椎真さん『祖父から学んだこと』 他6作品

#### ③社協活動紹介DVDの作成

- ・ボランティアの協力により社協活動をわかりやすく15分ほどのDVDにまとめ多くの人が集まるイベント等で上映し、社協が行う事業が身近な福祉活動であることを周知しました。また、ボランティアセンターについてまとめたDVDを作成し、福祉福祉フェスティバルでも上映しました。

#### ④社協ピンバッチ・ストラップの作成と配布

- ・社協キャラクター「サポート君」をイメージしたピンバッチとストラップを販売、その他にマグネットシートを作成・配布し社会福祉協議会のPRを行いました。

## 基本目標2 みんなで支えあうつながりの”わ”を広げます

<方向性1> 住民同士の支えあいを進めよう

重点事業1 近隣ケアグループ活動の支援

#### ①近隣ケアグループ全体研修会

演題：「大きなお世話に大成功～ご近所力が地域力～」

講師：松尾 やよいさん（夢コラボ 主宰）

日時：5月31日 各務原市民会館

参加人数：約1,000名参加

#### ②活動費助成と活動支援（手引きの活用）

- ・近隣ケアグループ活動支援では、活動費の助成を継続しながら全体研修会や地区社協を単位とした研修会の開催など、声かけと見守り体制のしくみづくりを推進しました。

<近隣ケアグループ登録数 302グループ 活動員数 2,184名>

- ・活動手引きの作成及び配布

近隣ケアグループ活動の手引きを作成し、グループ員のほか自治会長、民生委員児童委員に配布し、理解促進と啓発を図りました。

### ③高齢消費者被害防止推進モデル事業

- ・高齢者を対象とした消費者被害について、各務原市における現状を把握するとともに地区社協をはじめ、地域での消費者被害防止にむけた啓発を行いました。また、活動手引きにおいて、日頃見守っている方を対象にアンケート調査を行いました。
  - ・地区社協における研修内容
    - 第一部：県司法書士による講話
    - 第二部：寸劇グループ「つくしんぼ」による消費者被害の事例について
- 16地区社協 1,007名参加

## 重点事業2 ボランティアハウス事業の発展強化

### ①ボランティアハウス事業の活動支援と啓発

- ・地域で暮らす高齢者や子育て中の親子、障がいのある人たちが閉じこもりにならないよう気軽に集まることのできるボランティアハウス事業を促進し、立ち上げの相談、調整等の支援に努めました。また、開設から10年を経過したハウスへの備品更新助成をするなど継続的な支援を行いました。

A型（毎週型）	B型（毎月型）	C型（ミニボランティアハウス）	D型（巡回型）
6	83	3	1

（開設数 93か所・うち 新規11か所）

- ・ボランティアハウス活動のPR

マグネットシートを作成、地域住民に配布しボランティアハウスへの参加者を広く募りました。

### ②ミニハウス及び巡回型ハウスの立ち上げ支援

- C型：年4回、5名以上で開催 3か所が新設
- D型：巡回型 1か所が新設

### ③ボランティアハウスバスツアー事業

- ・いきいきバスツアー助成 41ハウス 3,427,960円

## <方向性2> 団体・組織間で連携しよう

### 重点事業1 関係機関との連携促進

#### ①福祉フェスティバル2015 ～つたえる つたわる みんなの想い～

日時：9月6日

場所：各務原市民会館・中央ライフデザインセンター一帯

来場者：約1万人 出店団体：75団体

#### ②自治会連合会長・地区社協会長合同会議<7月16日>

#### ③地区社協会長・福祉推進員合同会議<4月23日、2月19日>

#### ④聴覚障がい者団体への助成 100,000円

#### ⑤母子寡婦福祉会への助成 137,500円

- ・ひとり親家庭等児童中学卒業記念品贈呈事業<138名>

- ・新入学児童お祝い会事業<37名>
- ・母子寡婦福祉会員ふれあい旅行事業<160名>
- ・母子父子家庭新入学及び卒業記念品の贈呈

⑥更生保護女性会への助成 30,000円

<方向性3> 住民と地域がつながるまちをつくろう

重点事業1 コミュニティソーシャルワーカー(CSW)の充実

①さぽーとと連携した地域課題解決への取り組み

CSW(地区社協担当者)とさぽーとが情報共有し、地域での見守りや連携がとれる仕組みづくりを進めました。

重点事業2 福祉教育の推進

①福祉推進校・推進企業の指定

- ・次代を担う子供たちが、さまざまな体験活動をとおして福祉への関心をもち、理解を深めることができるように福祉推進校に指定しました。また、学校からの要請に応え、福祉体験講座の講師やボランティアを派遣しました。

・福祉推進校

小学校17校・中学校7校・高校3校・各務原養護学校 計28校

・福祉推進企業

賛助会員企業への福祉推進企業助成のPRを行いました。

②高次脳機能障がいを理解する講座の開催

- ・社会的認知が遅れている高次脳機能障がいについて、フォーラムや講演会への参加や当事者家族と交流するグループワークを開催し、職場や学校等の地域社会において上手なつきあい方・対応方法を学びました。

第1回:11月7日 『高次脳機能障がい』ってなあに?

岐阜高次脳機能障がいフォーラムに参加

産業文化センターあすかホール 39名参加

第2回:11月28日 身近な人の関わり方 日常的な支援とは

勤労会館 集会室 39名参加

講師:尾山 芳子さん

(高次脳機能障がいネットワークみらい愛知理事長)

第3回:12月5日 当事者・家族の視点から学ぶグループワーク

勤労会館 集会室 21名参加

講師:河田 幹子さん(NPO法人脳外傷友の会みずほ副理事長)

長谷川 祐子さん(ぎふ脳外傷友の会長良川会員)

③新入学児童お祝い事業

オリジナルトートバッグを作成し、小学校新1年生約1,430名に配布しました。

重点事業3 災害ボランティアセンターの充実

①災害ボランティアセンターの機能強化

市総合防災訓練に参加し、災害時の職員の動きについて確認しました。また、各務原市ひとづくり講座では、災害ボランティアセンターについて講義を行い、地域住民の理解を深めるよう努めました。

### 基本目標3 誰もが進んで参加できる地域福祉活動を続けていきます

＜方向性1＞ 地区社協活動の支援

重点事業1 地区社協らしさが出せる取り組みをしよう

①17地区社協活動の取り組み支援

企画提案型助成事業の継続支援および拡充

②17地区社協の実情にあわせたメニュー事業の展開

・メニュー事業の見直し

「支部」より「地区」への名称変更に伴い、メニュー事業をテーマで整理し従来のメニュー事業を見直しました。

- ・地区交付金 7,505,000円
- ・メニュー事業助成金 15,454,263円（歳末援護費含む）
- ・夢を実現プロジェクト事業助成金 3,338,000円
- ・メニュー事業助成の内容

事業名	近隣ケアグループ研修	地域の困りごと調査	福祉座談会	ボランティアハウス事業	ふれあい交流事業	機関紙の発行	地区社協PR事業	歳末たすけあい特別事業	食を通じた生活支援事業	生活支援メニュー団体連携事業	福祉の人財発掘事業
	回数	回数	回数	箇所	回数	回数	実施有無	回数	回数	数	回数
那加一	2			4	3	1	○	1	1		2
那加二東部	1		1	8	2	2	○	1			1
雄飛	2		1	2	3	1		1			1
那加三	2	1	2	7	1	3	○	1			
尾崎	1		4	3	3	3	○	1			2
稲羽西	2		1	4	1	2		1			2
稲羽東	1	1	1	2	2	1		1			
川島	2			4	3	1		1	1		
鵜沼第一	1	1	1	5	2	2		1			1
鵜沼第二	1	1	1	6	2	2	○	1			1
陵南	1	1	1	4	1	2	○	1	1		2
鵜沼第三		2	1	5	2	2	○	1	8		2
各務	2		2	7	6	2	○	1			3
緑苑	2	1	4	5	1	8	○	1		1	3

八木山	2	4	4	2	12	7	○	1		2	
蘇原北部	1		1	14	3	2		1			1
蘇原南部	1	2	1	11	3	2	○	1			
合計	24	14	26	93	50	43	11	17	11	3	21

### ③地区社協会長他市社協研修や広報研修会

- 地区社協会長他市社協研修  
 <6月25日 滋賀県高島市社会福祉協議会を視察>  
 内容：地区社協活動、地区ボランティアセンター事業について
- 地区社協広報担当者研修会  
 日時：11月30日  
 場所：産業文化センター2階 第3回議室  
 内容：伝えるためのヒント  
 参加者：23名

### <方向性2> 生活課題に取り組もう

#### 重点事業1 生活相談センターさぽーとの充実

##### ①生活困窮者自立支援事業の実施

- 生活困窮者自立支援法に基づく相談事業を受託し、生活困窮者の社会生活の自立支援と地域づくりを目指した相談支援を行いました。  
 相談件数 2,844件（再掲）  
 実相談者数 442名（再掲）
- 事業をPRするポケットティッシュを作成、関係機関窓口に配置しました。
- 法律に基づき支援計画を作成し、関係機関で協議する支援調整会議を5回開催しました。
- 住居確保給付金申請事務にかかる相談を16件（支給決定2件）、任意事業の一時生活支援事業を2件、就労準備支援事業を1件実施しました。

##### ②生活困窮者への緊急食料品等提供

- 適切な福祉サービス利用へつなぐとともに、一時的措置として食糧を給付しました。  
 給付件数 73件  
 セカンドハーベストを通じた食糧給付 21件

##### ③生活福祉資金貸付事業

低所得者世帯や離職者など経済的支援を必要とする世帯に自立を促し、安定した生活を営むため生活支援費や福祉資金などの資金を貸し付け、必要な助言・指導をしました。

・新規貸付件数<71件>

資金の種類	新規貸付件数
総合支援資金	2件
緊急小口資金	50件
福祉費	7件
教育支援資金	12件

・貸付に関する相談 <延べ898件>

④高額療養費貸付事業

貸付件数 298件 貸付者数 56名

⑤法人後見事業

- ・弁護士と顧問契約を結ぶなど専門機関との連携を図り、法人後見開始のための家庭裁判所等関係機関との協議、実施要綱を整備し法人での成年後見業務を開始しました。

後見専門員1名、後見支援員2名の体制で実施しました。

受任件数 2件（類型：後見1件、保佐1件）

⑥基幹型日常生活自立支援事業

- ・岐阜地区福祉サービス利用支援センター

- ・判断能力が低下し日常生活に不安のある人が、住み慣れた地域で安心した生活ができるように、「福祉サービス利用にかかる援助」「日常的金銭管理」「書類等預かり」のサービスを契約に基づき行いました。

基幹的社協として各務原市・笠松町・岐南町（1市2町）を管轄

- ・生活支援員15名
- ・継続契約件数44件（各務原市34件、笠松町2件、岐南町8件）
- ・新規契約件数16件（各務原市12件、笠松町1件、岐南町3件）
- ・生活支援員および担当職員研修会の開催<3月18日 18名参加>

⑦権利擁護を学ぶ講演会

- ・成年後見制度普及講座

認知症になっても心身に障がいがあっても、権利が守られ自分らしい生活が続けられるように、成年後見制度の普及を目的とした講座を二部構成で開催しました。

県社協の安心なまちづくり推進モデル事業の助成を受けて実施しました。

<11月26日 91名参加 中央図書館多目的ホール>

第一部 『落語で知ろう成年後見制度』

演者：桂 ひな太郎さん（落語家）

演題：「後見爺さん」

第二部 座談会『つかって安心。成年後見制度』

座長：新井 康友さん（中部学院大学准教授）

発表者：山田 貞夫さん（弁護士）

清水 恵子さん（市社会福祉課）

竹内 育美さん（B e e. フレンズ）

桂 ひな太郎さん

### ⑧障がい児者計画相談支援（ケアプラン）の作成

- ・障がい者特定相談支援事業所の指定

新たに障がい者特定相談支援事業所の指定を受け、障がい児者のプラン作成と地域相談支援事業に取り組みました。

計画相談支援件数 46件      モニタリング 50件

### ⑨障がい児者相談支援事業

地域相談支援方法及び件数

訪問 295件、      同行 24件、      来所 380件、  
電話（ファックス含む） 807件、      電子メール 29件、

個別支援会議開催      29件、      関係機関との調整 122件

## 重点事業2 福祉移送事業の推進

### ①福祉移送事業

- ・新たに運転手を雇用し、利用者に対し安定した利用ができるよう努めました。

<登録者数 55名      運行実績 249回>

## 重点事業3 介護保険法・障がい者総合支援法に基づく支援

### ①居宅介護支援事業（ケアプラン作成）、認定調査の実施

要介護認定の高齢者等が安心して在宅で生活できるよう、本人や家族と相談して適切な居宅介護サービス計画を作成しました。

- ・ケアプラン作成 1,638件

介護度	介護度別件数	介護度別比率	月平均件数
要介護1	499	30.5%	41.5
要介護2	646	39.5%	53.8
要介護3	287	17.5%	23.9
要介護4	159	9.7%	13.2
要介護5	47	2.8%	3.9
計	1,638	100.0%	136.3

- ・要介護認定調査実施 200件

### ②訪問介護事業、障がい児者ヘルパー、ガイドヘルパー派遣事業

要介護高齢者や障がい児者の在宅生活を支援するホームヘルパーやガイドヘルパー派遣を行いました。また、制度外サービスとして『まごころサービス』を展開しました。

• 要介護認定者へのサービス提供実績

利用者数 <延べ707名>

月平均利用者数 <58.9名>

サービス形態別の実績

内 訳	回 数	延べ時間
身体介護	3,402	3,264
身体生活	2,190	2,763
生活援助	3,283	3,035
合 計	8,875	9,062

• 要支援認定者へのサービス提供実績

利用者数 <延べ614名>

月平均利用者数 <51名>

内 訳	利用者数	利用頻度
予防Ⅰ	407	週1回程度
予防Ⅱ	182	週2回程度
予防Ⅲ	25	週2回を超えるもの
合 計	614	

• 障がい児者へのサービス提供実績

利用者数 <延べ817名>

月平均利用者数 <68名>

内 訳	利用者数	利用回数
身体障がい	175	1,765
知的障がい	156	1,343
精神障がい	206	1,378
障がい児	47	479
同行援護	113	415
移動支援（障がい者）	89	217
移動支援（障がい児）	31	192
合計	817	5,789

• 高齢者生活援助活動員派遣事業のサービス提供実績

利用者数<延べ24名>

月平均利用者数<2名>

利用時間<延べ96時間>

③訪問入浴サービス事業、在宅障がい児者訪問入浴サービス

自宅の浴槽を使っての入浴が困難な要介護高齢者や障がいのある人等を対象に特殊浴槽を用いた居宅での入浴サービスを提供しました。

• 介護保険の訪問入浴実績

利用者数 <延べ73名>

利用回数 <延べ385回>

• 障害者自立支援法による実績

利用者数 <延べ49名>

利用回数 <延べ277回>

④老人デイサービス事業、障がい者デイサービス事業

須衛稲田にある市福祉の里内のデイサービスセンターで、要介護認定者や障がいのある人等を対象に、健康チェック、入浴、食事、レクリエーションなどのサービスを提供しました。

・介護度別利用実績（併設通所型）

実施日数 <307日>

1日平均利用者数 <17.9名>

介護度	2～3時間	3～5時間	5～7時間	合計
要介護1	6回	2回	1,367回	1,375回
要介護2	5回	0回	1,829回	1,834回
要介護3	2回	5回	957回	964回
要介護4	2回	0回	533回	535回
要介護5	13回	0回	159回	172回
合計	28回	7回	4,845回	4,880回

予防通所介護1	65回
予防通所介護2	535回
合計	600回

・秋祭の開催

日頃の感謝の意味を込めて、利用者のご家族を招待して秋祭を開催しました。地域の民生委員児童委員さんやケアマネジャーさんにもご参加いただきました。唄と三味線の演奏、家族・スタッフとのミニ運動会を楽しみました。

<10月10日 92名参加>

⑤川島園デイサービス事業

高齢者の閉じこもり予防と自立支援のため、川島松倉町にある高齢者生きがいセンター川島園介護予防事業を受託しました。

開設日数 <140日>

利用者数 <延べ440名>

重点事業4 地域包括支援センターの受託

地域の高齢者が安心して暮らせるように、看護師・社会福祉士・主任ケアマネジャー・認知症地域支援推進員が連携して介護予防や総合相談、権利擁護などの事業に取り組みました。

総合相談支援 <1,160件>

受付別内訳 （電話515件、来所204件、訪問378件、その他63件）

内容別件数（重複あり）

(1) 介護保険制度の利用	746件
(2) 福祉サービスの利用	249件
(3) インフォーマルサービスの利用	67件
(4) 医療・保健サービスの利用	108件
(5) 住宅改修に関する相談	144件

(6) 福祉用具に関する相談	170件
(7) 介護方法に関する相談	47件
(8) 虐待に関する相談	17件
(9) 権利擁護に関する相談	42件
(10) 認知症、障がい、出前講座等に関する相談	410件

①介護予防ケアプランの作成 <3,070件>

- ・介護予防事業及び在宅介護支援事業

(1) 転倒骨折予防事業	17件
(2) アクティビティ・認知症予防介護教室	40件
(3) 住宅改修プラン作成	29件
(4) 食の自立支援事業アセスメント	39件
(5) 介護予防プラン作成（二次予防プラン）	10件
(6) 地域包括ネットワーク事業	3件
(7) 基本チェックリスト未回収者把握事業	39件

②介護予防教室及び認知症サポーター養成講座

- ・認知症に対する取り組み
- ・もの忘れよろず相談医による講話 <11月13日 53名参加>  
講師：奥田内科 副院長 奥田 愛子 先生  
講話：「認知症の方と寄り添い生きるために」
- ・認知症の方の家族介護者交流会  
<5月29日、7月11日、11月9日、1月30日 延べ77名参加>
- ・認知症キッズサポーター養成講座（小学校5年生、中学校2年生対象）  
<那加第二小学校 11月27日>  
<那加第三小学校 7月13日>  
<蘇原第二小学校 7月14日>  
<那加中学校 10月 7日>  
<桜丘中学校 11月19日>  
<蘇原中学校 1月19日>
- ・企業対象認知症サポーター養成講座  
<10月14日・15日 ピアゴ各務原店にて開催 延べ40名参加>

③店舗での出張相談

- ・介護よろず出張相談所の開設 <6月24日、8月26日、11月25日>  
ピアゴ各務原店にて、出張相談所を開設しました。

④地域ケア会議（包括的・継続的ケアマネジメント支援）

<154件 重複あり>

(1) 個別事例への助言対応	62件
(2) サービス担当者会議出席及び開催	33件

(3)	ケアマネジャー資質向上のための研修	12件
(4)	介護支援専門員に対する情報支援等	22件
(5)	主治医との連携	3件
(6)	地域ケア会議（個別）	14件

- けあまねネットワーク  
     <10月27日 参加者21名、3月11日 17名参加>
- 地域におけるネットワーク活動
- 高齢者包括ケア会議  
     <6月17日、10月21日、2月17日 年3回>
- 地域包括支援センター連絡会  
     <毎月第2水曜日 12回>
- ボランティアハウス、シニアクラブ、地区社協等との連携事業等  
     <91回>
- 地域包括支援センターだよりの発行  
     <年2回発行 6月号、3月号>
- 日常生活圏域地域ケア会議（ネットワーク会議）  
     <那加第二小学校区 11月24日 29名参加>  
     <那加第三小学校区 12月 1日 15名参加>  
     <蘇原第二小学校区 11月30日 21名参加>

#### **基本目標4 人と地域ができることを活かす仕組みをつくります**

<方向性1> みんなの出番をつくろう

重点事業1 ボランティアセンターの充実

##### ①個人・団体登録促進と活動支援

ボランティア通信の発行や、一芸ボランティア冊子などでボランティア紹介や調整等を行いました。

- ボランティア活動に関する相談、登録等

団体登録 72団体 1,964名

個人登録 62名

ボランティア情報配信登録 50名

- ボランティア活動保険の加入

ボランティア中の事故やけがに備えるための保険に加入し、事故等の対応を行いました。

## ②ボランティア養成講座の開催

講座名	期 間	受講者	修了者
手話奉仕員養成講座・入門編	8月21日～12月18日 毎週金曜日18回	16名	16名
手話奉仕員養成講座・基礎編	7月9日～12月17日 毎週木曜日23回	7名	7名
点訳ボランティア養成講座	6月1日～ 9月28日 毎週月曜日15回	3名	2名
音訳ボランティア養成講座	4月21日～ 8月4日 毎週火曜日15回	6名	6名
要約筆記体験講座	11月5日, 12日, 19日, 26日 木曜日 計4回	5名	—

## ③収集ボランティアサロンへの参加促進

古切手や使用済みテレホンカードなどを収集・整理する収集ボランティアサロンを開催しました。

<年間12回開催 延べ69名参加>

## 重点事業2 人材育成と活用促進

### ①成年後見支援員等の活用

法人後見事業の開始に伴い新たに成年後見支援員として活動しはじめました。

## 重点事業3 高齢者の社会参加支援

### ①お達者でクッキング事業

食生活改善協議会のボランティアの協力により一人暮らし高齢者や高齢者夫婦を対象に年2回開催しました。

<6月23日 20名参加、11月20日 13名参加>

## 重点事業4 障がい者の活躍支援

### ①障がい者サロンへの活動支援

・障がいサロン「みっぱらクック」の継続的な活動を支援するために活動費の助成を行いました

年間12回実施 <延べ324名参加>

## 重点事業5 子育て事業の推進

### ①ファミリーサポートセンター事業・交流会、産後お助け隊事業

・ファミリーサポート講習会

今年度新たな試みとして子育てに必要な知識を身に付けていただくための講習会を開催しました。

講習会：12月10日 テーマ「子どもの安全を守るために必要なこと」

講師：JAF岐阜支部職員1名

参加人数 6名（サポート会員3名・利用会員1名・市民2名）

・ファミリーサポート交流会

市内でファミサポの周知による会員数の増加、現在の会員相互の交流を図る目的で、交流会を開催しました。

交流会：3月9日 テーマ「親子で作ろう！デコレーションおやつ♪」

内 容：パンケーキやクラッカーの上に果物やクリームなどのデコレーションをして、参加の交流を図る。

参加人数：64名（利用会員5組・サポート会員2名・市民26組・新規登録5名）

- ・利用会員・サポート会員の登録促進、産後お助け隊事業

主に小学校3年生までの子どもを対象に、学校や保育施設までの送迎や一時預かりなど保護者にかわってサポート会員が行いました。また、生後3ヶ月までのお子様をもつ家庭を対象にした「産後お助け隊」制度を開始し、利用会員宅で沐浴のお手伝い等のサポートを行いました。

登録者数 365名（利用会員276名、サポート会員89名、

※産後お助け隊サポーター14名含む、利用会員兼サポート会員14名）

コーディネート実績 767件（※内、産後お助け隊実績 13件）

新規登録者 48名

- ・新規お試し券の発行

お試し券利用者 3名

## ②子育てサロンへの活動支援

- ・親子サロンへの助成

市内8ヶ所で開催されている親子サロンへ活動費を助成しました。

## 重点事業6 共同募金運動の促進

### ①共同募金支会の運営

- ・共同募金運動（赤い羽根募金・歳末たすけあい募金）の展開及びPR

年度	赤い羽根募金	歳末たすけあい募金	募金額合計	歳末たすけあい配分実績
27	17,878,339円	2,418,538円	20,296,877円	2,418,538円

### ②歳末たすけあい配分事業（配分実績の内訳）

配分先	対象者数	配分金額
障がい者通所施設	26施設 980名	750,810円
地区社協活動（歳末たすけあい特別事業）	17地区 3,606名	1,667,728円
合計	4,586名	2,418,538円

## <方向性2> 地域の新たな支えあいの仕組みをつくろう

### 重点事業1 夢を実現プロジェクト事業の促進

#### ①企画提案型一夢を実現プロジェクト事業

企画提案型助成事業の継続支援および拡充

- ・夢を実現プロジェクト事業

緑苑地区社協「常設活動拠点を利用した地域ふれあい事業（ふらっと）」拠点運営

八木山地区社協「ささえあいの家事業」拠点運営

「より住みやすいまちづくりを目指す生活支援活性化事業」

生活支援

各務地区社協 「歴史で広がる郷土の福祉」	福祉教育
②企画提案型一小地域で行う夢プロミニ事業	
那加一地区社協 「新加納地区暮らし安全防犯パトロール事業」	生活支援

重点事業2 権利擁護事業の推進

- ①法人後見事業（再掲）
- ②基幹型日常生活自立支援事業（再掲）
- ③権利擁護を学ぶ講演会（再掲）

重点事業3 法人組織の整備強化

①役員構成の強化再編

新たに民間から会長が就任され、公共性と独自性の両面において活発な社会福祉事業を行える体制が整いました。

理事会・評議員会の開催

- <理事会 4月21日、5月25日、10月14日、3月26日>
- <評議員会 4月21日、5月25日、3月26日>

②第49回社会福祉大会

- <11月17日 福祉関係者・市民約650名参加 各務原市民会館>
- 第一部：式典 福祉関係功労者の表彰
- 第二部：講演 講師：ヨネスケさん  
演題：「隣の晩ごはんから見る家族とご近所」

③会員加入促進と使途説明の強化

・会費制度の見直し

多くの市民に協力いただけるよう各地区社協単位でチラシを作成しました。また、自治会の負担軽減を図るために記名済み領収書を配布しました。

世帯会員				賛助会員		合計
年度	会員数	加入率	会費額	法人・団体・個人会員 会員数	会費額	
27	37,137	80.9%	18,765,100円	783	3,286,500円	22,051,600円

・会費使途説明資料の作成

よりわかりやすい資料の作成に努め、会費への理解促進を図りました。

・寄付金

件数	寄付金額（物品を含む）
84件	5,364,663円

#### ④安全衛生委員会

職員の健康管理のため健康診断を実施するとともに安全衛生委員会を開催しました。

職員健康診断 <6月22日>

安全衛生委員会 <毎月1回>

産業医参加による健康指導 <10月23日>

#### ⑤職員レベルアップ講座

市民サービスの拡充に努め、資質向上を図るため職員全体研修会を行いました。

・7月21日 参加人数 53名

第一部 演題 社会福祉協議会会費について

第二部 演題 ストレスとの付き合い方

講師 前田 幸子さん（フリーアナウンサー）

・12月9日 参加人数 54名

演題 話し方講座

講師 平下 和代さん（人材育成センター）

#### 重点事業4 新たな制度外生活支援サービスの創出

##### ①まごころサービス事業

介護保険では行うことができない制度外サービスとして提供しました。

外出支援 8名	通院支援 60名	薬とり 2名
大掃除 3名	買物 2名	

・利用者数 <延べ75名>

##### ②車いす、松葉杖、レクリエーション用品等の貸出

・車いすや松葉づえの貸出

貸出件数 140件

・レクリエーション用品等の貸出

貸出件数 72件